

市内の幼稚園・小学校の取組を紹介します

市内各幼稚園、小・中学校では、『生きる力』の支えとなる、知・徳・体の調和のとれた子どもを育成するために、日常的に校内研究を行っています。昨年行われた研究発表会から、幼稚園・小学校の取組を紹介します。

小郡・三国
幼稚園

幼・小の円滑な接続に向けたカリキュラムの開発

小郡幼稚園・三国幼稚園では、2園が協働して「アプローチカリキュラム」を作成し、保育活動を行っています。「アプローチカリキュラム」とは、幼稚園の年長期の後半(9月～3月)に行われる保育活動で、小学校入学時までには育みたい力や、そのための保育環境、教師の援助について示したものです。2園は、協働して作成したカリキュラムに沿って、保育活動を行っています。

小郡幼稚園の保育活動では、動物になりきって遊ぶ活動を通して、友達と自分の考えを伝え合ったり、リズムに合わせて体を思いきり動かしたりしました。また、さまざまな形をした箱を組み立てる活動を通して、友達と一緒に魚の泳ぐ海や広い家を作り、友達のよさに気付く姿が見られました。

三国幼稚園の保育活動では、玉をたくさん投げ入れるゲームを通して、ルールを守りながら、友達と力を合わせて遊びました。

また、講演会では、小学校の先生と保育園、幼稚園の先生と一緒に、これからの保幼小連携について共に学びました。



玉入れゲームをする
幼児の様子

のぞみが丘
小学校

気付き、考え、行動する力を育む教育活動の創造



防災の専門家の話を聞く
子どもの様子

のぞみが丘小学校では、「のぞみが丘小学校防災プログラム」を作成し、防災対応能力を身に付ける学習を行っています。

このプログラムでは、「(自他の命を守る)」「(人や地域と)つながる」「(災害に)備える」という3つの観点から、各教科や道徳、総合的な学習の時間、特別活動などを通して、防災教育を行っています。

「守る」という観点からは、道徳の時間に、東日本大震災で被災した女の子の作文を通して、周りの人と支え合って生きている自分の命の尊さについて学びました。

「つながる」という観点からは、道徳の時間に、平成7年に発生した阪神・淡路大震災の資料をもとに、社会のために働く心や郷土を愛する心について考えていきました。

「備える」という観点からは、学級活動の時間に、地震時の身の守り方や防災マーク、防災リュックの役割を考え、災害に備える大切さを学びました。

また、校区協働のまちづくり協議会防災部会や市役所の協働推進課防災安全係と連携して、「学校防災プロジェクトチーム」を編成し、防災マニュアルを作成することができました。

●問合せ先 教務課教務係 ☎72-2111内線514